

廃棄物処理事業の検証を

当時の状況を確認したい



阿部 幸一 議員
(新 生 会)

問 23年3月11日に発生した東日本大震災津波は広域的な人的・物的被害をもたらした。特に災害廃棄物（がれき等）の発生量は膨大であり、町の復興に向けて、これを早期に撤去・処理する必要があることから、県と連携し23年度から25年度の3力年で災害廃棄物処理事業を実施した。総事業費215億4690万2000円、県には176億円、残りは町の事業費。ただ、浦の浜地区の林地開発の問題の場所から大量の抜根を無許可で投棄したと聞く。県と協議をしてはどうか。検証は必ず必要と思う。

佐藤町長 浦の浜地区のがれき処理施設による災

害廃棄物処理については、町が県に業務を全面的に委託し、26年3月で完了している。町としては、県の指導、管理の下に実施されたと認識しているが、県から当時の状況等について確認したいと考えている。

公共工事費の状況は

前年度に比べ増加

問 町の30年度（5月、6月、7月）の公共工事費は前年度比でプラスかマイナスか説明せよ。

町長 入札結果の公表を実施している予定価格250万円以上の工事請負契約で比較すると、契約

額では、30年度は15億5800万円と、前年度比で12億8300万円の増加となっている。また、落札件数については、30年度は20件となっており、前年度比で13件の増加となっている。

ILCに対する認識は

結びつき薄いが今後の動向注視

問 町ではILC誘致に対する期待と課題について、どういう認識か。

町長 本町は26年度より、岩手県国際リニアコライダー推進協議会に加入し、県内へのILC誘致に向けた啓発活動などに参画してきた。この国際的なプロジェクトが実

現した場合、大きな経済波及効果が期待されるが、誘致実現が不透明であることに加え、現時点では加速器関連産業と町内事業者との結びつきは薄いものと考えられることから、今後の動向を注視していく必要がある。



施工中の町道細浦柳沢線